

「日本橋の建築・再発見」

日本橋を もくろむ

2020年 9月2日 水 — 2021年 2月21日 日

高島屋史料館TOKYO 4階展示室 [入館無料]

[開館時間] 11時～19時 [休館日] 月・火曜日、年末年始(12月28日[月]～1月5日[火])

東京都中央区日本橋2-4-1 日本橋高島屋S.C. 本館4・5階 ※5階旧貴賓室は、セミナー開催時のみ開館します。

[主催] 高島屋史料館TOKYO [監修] 五十嵐太郎 (建築史・建築評論 / 東北大学大学院教授)

※本展は会期が変更となりました。

※新型コロナウイルスの拡大状況等を踏まえ、臨時に休館日・開館時間を変更する場合があります。最新の開館状況は、公式ウェブサイトをご確認ください。

高島屋史料館
TOKYO

日本橋の建築・再発見

装飾を ひもとく

2020年 9月2日 水 — 2021年 2月21日 日

※本展は会期が変更となりました。※当初予定していた関連イベントはすべて中止となりました。
※新型コロナウイルスの拡大状況等を踏まえ、臨時に休館日・開館時間を変更する場合があります。
※最新の開館状況は、公式ウェブサイトをご確認ください。

今年の夏に開催される予定だったオリンピックと同様、ギリシアを起源として世界に広がり、今なお影響力をもつものがある。古典主義の建築だ。これはローマ帝国に受け継がれ、広大な領土に遺跡を残した後、さらにルネサンスの時代に復興し、20世紀後半もポストモダンの時代に注目された。現在の東京において、古典主義の風格を強く感じられるのは、日本橋のエリアだろう。特に日本銀行本店本館(1896)や三井本館(1929)の様式建築が現存しているほか、日本橋三越本店本館(1914)や日本橋高島屋本館(1933)の百貨店の骨格となる外観の構成に影響を与え、21世紀に入っても、コレド室町などの再開発で列柱の感覚が継承されている。そこで近代から現代までの日本橋の建築群を改めて観察することが、本展の狙いだ。なお、昨年、高島屋史料館TOKYOのオープニング企画では「日本橋高島屋と村野藤吾」展が開催されたが、今回は村野が増改築した部分よりも、高橋貞太郎が設計し、和風の装飾を散りばめた創建当初のデザインに注目する。

もうひとつの目的は、様式のラベルを貼るだけの説明とはせず、もっと深く装飾的な細部を見ることである。例えば、これはルネサンス様式だと言われると、なんとなく知った気分になって、そこで建築の理解を止めてしまう。だが、本当にそうなのか。現在に比べて、情報や人の移動が少ない近代の日本では、限られた知識の中で古典主義を再現、あるいは建物の用途に合わせて、創意工夫を凝らして改変している。当然、イタリアの純正ルネサンス様式とは違うはずだ。したがって、装飾をていねいに読み解くことで、差異が明らかになり、その建築の特徴も浮かびあがる。こうした細かい要素について、設計者がわざわざ文章で意図を伝えたものはほとんどない。しかし、かたちそのものが、時代を超えて、われわれに語りかける。その声を聞くことが、必要なのではないか。今回は展覧会に合わせて、持ち帰りができる日本橋の建築マップも作成した。会場を出たら、是非、手にとって、高島屋の内外、そして街を散策しながら、実物を観察して欲しい。本展が、これまで見過ごしていた「建築」を再発見する機会となれば、幸いである。(監修:五十嵐太郎)

高島屋史料館(大阪)のご案内

住所:大阪府大阪市浪速区日本橋3丁目5-25 TEL:06-6632-9102
【展覧会のご案内】 <https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/>
※詳細はホームページをご覧ください。
※高島屋史料館(大阪)は2020年1月リニューアルオープンしました。

江戸時代より経済・文化の中心地として栄えた日本橋は、かつて全く新しい風景を出現させた最先端の地でした。日本橋高島屋をはじめとし、周辺には日本橋三越本店本館、日本銀行本店本館、三井本館など、ヨーロッパに学ぶ本格的な古典主義の建築が多数残っていることから、それは明らかです。また近年、日本橋は新たな再開発が進む街として注目されています。本展では日本橋高島屋を中心に、日本橋地域の近現代建築を取り上げます。なかでも建築の細部・装飾に焦点をあて、西洋の古典主義が日本橋界隈の建築にどのように導入されているかを検証します。知られざる装飾の歴史をひもとき、新たな建築の楽しみ方を提案します。

※会場では日本橋建築MAPを配布予定です。



1. 正面中央、アーチ上の蕨股風モチーフ
(日本橋高島屋本館)



2. 正面入口の柱頭(日本橋高島屋本館)



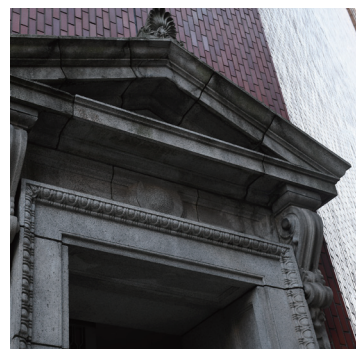
3. 日本銀行本店本館のコリント柱頭
(日本銀行本館)



4. 三井本館の扉口上部のペディメントの装飾ディテール
(三井本館)



5. 旧建築の手摺子(スターツ日本橋ビル)



6. 通用口のオリジナルの一部を作りなおした楯
(日本橋御幸ビル)

(1.2.5.6 撮影:五十嵐太郎/3.4 撮影:菅野裕子)

高島屋史料館TOKYO

東京都中央区日本橋2-4-1
日本橋高島屋S.C. 本館4・5階
※5階旧貴賓室は、
セミナー開催時のみ開館します。



<https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo>

【アクセス】

- JR[東京駅]八重洲北口から徒歩5分
 - 東京メトロ 銀座線・東西線[日本橋駅]直結
 - 都営地下鉄 浅草線[日本橋駅]から徒歩4分
- ※駐車場は大変混雑しております。お車の入出庫には非常にお時間が掛かるため、ご来館の際は公共交通機関のご利用をお願いいたします。

